

【取組内容①】 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」

○合唱コンクールに向けた音楽科での実践 [動画リンク](#)

3年1組

群 青（混声四部合唱）

めあて「パートの声が一つになるように声の出し方に注意して歌おう」

各自の今日の学習課題（意識していくこと）

パートの人と声の出し方を合わせられるようになろう。	音程を外さずパートで声の一つになるようにしよう
パートの人と声の出し方を合わせられるようになろう。	地声にならずパートに溶け込むような声を意識して歌う
周りの人の声を聞きながら、合わせようと意識を持って歌う。	足を引っ張らないようにする。
パートの人と音程を揃えよう	お手本の歌を意識して音程を外さないようにする。周りの人とズレていないか確認しながら歌う。
パート練習で周りの声をしっかりと聞いて、揃える	パートで声一つにする。
音程を完璧にし、パートの声を揃える。	音程やリズムを外さず正しく歌い、パートの人と一つの歌を作ろう。
	一人一人が周りに声を合わせようとして意識して歌う

生徒一人一人が「学習のめあて」を達成するために、個別の学習課題（練習で意識していくこと）を設定

学び方の選択



個人練習



同じパートの人と練習

各自がめあての達成に向けて計画した方法（練習の形態、時間など）で練習を進める

【成果】

- ・個人の学習課題の設定や練習計画の作成により、自分なりの方法で主体的に学習に取り組む姿が見られた。（指導の個別化と学習の個性化）
- ・個人の学習課題や練習計画をクラウドで共有することで、各個人が1単位時間の授業で取り組むことが視覚化され、同じ目的を持つ友達同士で学びを深める姿が見られた。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高森町立高森中学校（熊本県）

【取組内容①】 外部専門家（放送局）による授業の実施（高森東学園とのオンライン授業）

○高森ふるさと学（総合的な学習の時間） 「子ども議会に向けて」



高森ふるさと学「子ども議会に向けて」の授業で、放送局の方をお招きして講話をしていただいた。

【講話の内容】

- 収集した情報を取捨選択し、第三者に伝えるためのポイント
- 「子ども議会」での提案に向けて、生徒の発表の様子を見てもらい、相手に的確に伝えるポイント（表現力）についての指導



本校だけでなく、町内の学校とも連携を図りながら「子ども議会に向けて」の取組を進めている。そのため、今回の講話もオンラインで2校を繋ぎ、同じ講話を聞いた。

【成果】

- ・アナウンサーの方から話し方の指導をしていただいたことで、表現力を向上させることができた。
- ・発表の場面で、意欲的に話し方の工夫をしようとする生徒が多く見られた。

【取組内容②】 理科における授業と家庭学習の連動を意識した単元デザインの工夫

○端末の日常的な持ち帰りによる授業と家庭学習の連動

2時間目
10月13日

学習課題

ロウの状態変化と体積・質量の変化を調べよう。

学習内容（わかったこと・学んだこと）
 実験⇒ロウの変化状態と体積・質量の変化
 結果⇒温めて液体にした状態でも質量は変わらず、氷水で冷やしても質量は変わらなかった。
 体積は液体にすると個体の時より体積が大きくなり、また氷水で冷やしたら積が小さくなった。

振り返りの視点

- ①話し合いを通して
- ②これまでの学習から
- ③もっと調べたいこと
- 疑問に思ったこと
- ④難しかったこと

ふりかえり

ロウは温めても、氷水で冷やしたら、質量は変わらず、体積が変化した。だから、他の物質もロウと同じような結果になるのか気になりました。

どの物質も同じような結果になるのかな？
粒子モデルを使って考えてもいいね。

- ①「もっと調べたい」「疑問に思った」とう視点で振り返りを行う。

- ②教師はコメント機能を活用して、フィードバックを行い、次時の課題設定をサポートする。

【成果】

教師からのフィードバックを家庭で確認することで、授業での学びと連動させることができた。また、「もっと調べたいこと」や「疑問に思ったこと」を視点にして振り返りに記入することで、生活や他教科と関連付けて考えることができた。

家庭学習での生徒の思考

もしかすると、他の物質でも全て同じ結果になるのではないかな。

物質は状態変化するとき、体積と質量の変化の仕方に決まりがあるのかもしれない。

物質の溶け方のときのように粒子モデルを使って考えてみたらどうかな。

学習課題
物質の状態変化と体積・質量の関係を
粒子モデルを使って考察しよう。

- ③家庭学習で、前時の振り返りから次時の学習課題を個人で設定した。これにより、次時の学習への意欲が向上し、次時の学習の見通しを持つことができる。これらを習慣化することで授業と家庭学習の連動を図り、学びを深めていく。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高森町立高森中学校（熊本県）

【取組内容③】 クラウドやシンキングツールを活用した職員会議や校内研修の効率化

クラウドにレジюме（校内研修や職員会議等）をPDF形式でアップロードし、会議資料のペーパーレス化を図っている。

連絡事項はコメント機能を活用し、リアルタイムで共有化を図る。

職員会議や校内研修の際に必要な資料はクラウド上にアップロードし、リンクを貼って閲覧できるようにしておく。

修（事... ▾

第12回 校内研修(事前研:学年部)

校内研修担当

場 所:職員室
持参物:筆記用具、校務用PC

1 連絡 15:50~

2 校長先生より 15:55~

3 中研について 16:00~
○授業の見どころ・研究の視点
○今後の日程等

4 事前研 16:10~
○投票者決定(第1回:10/2~4、第2回:10/30~11/1、第3回:12/4)
○投票構想(授業の見どころ・研究の視点)

1年部	2年部	3年部
1年2組教室	2年1組教室	3年1組教室

※ 学年ごとに終了

人権作文集「地鳴」について
期日が11月30日に関係者が集まって添削するので例年より早め（10月末までに内容や保護者への連絡を）の準備を

人事評価について
業績評価と能力評価の自己評価（上期）と目標設定（下期）
×切は来週一杯

- ・秋の交通安全週間について
- ・中央小について
- ・代休申請について

【成果】

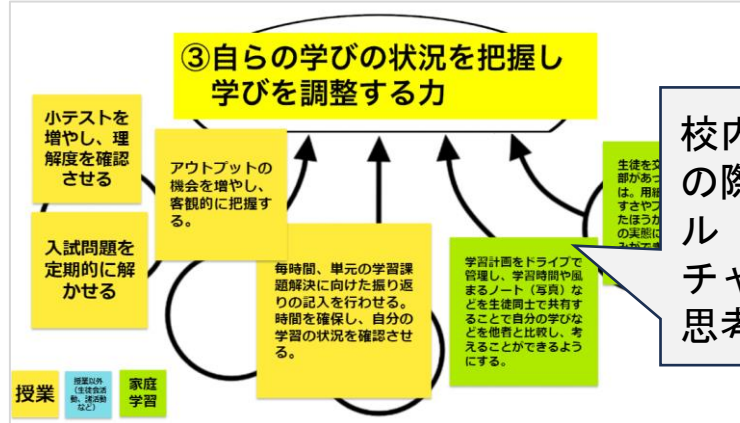
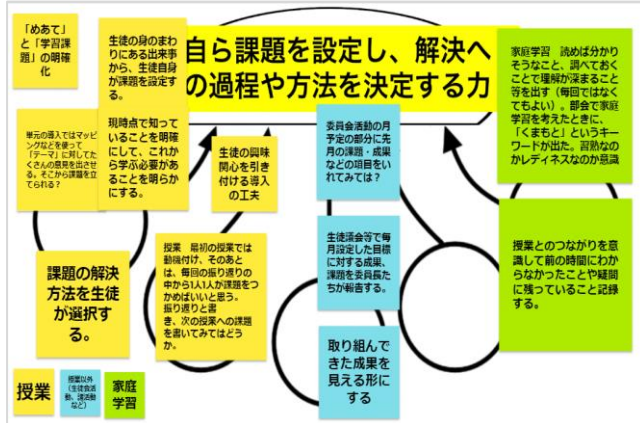
- ・会議資料を印刷したり、綴じたりする必要がなくなったことで、資料作成にかかる負担を軽減することができた。
- ・クラウド上に資料やコメントでの連絡事項を保存することで、時間や場所を問わず確認することができ、情報共有を行うことができた。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高森町立高森中学校（熊本県）

【取組内容③】 クラウドやシンキングツールを活用した職員会議や校内研修の効率化

○校内研修におけるシンキングツールの活用



校内研修のグループ協議の際に、シンキングツール（クラゲチャートやXチャートなど）を活用し、思考の可視化を図る。

○効率的に情報を収集するためのアンケートフォームの活用

質問 回答 12 設定

今年度の反省、来年度に向けて（校内研修）

今年度の反省を記入してください。先生方からのご意見を、来年度の研修計画や研究テーマに活かしたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

職員向けのアンケート（職員会議や校内研修に活用する）等はアンケートフォームを活用し、効率的に情報を収集し、整理できるようにしている。

1 研究主題について

③ 研究主題

自立した学習者の育成
～学びが広がる「たかもり学習」の展開を通して～

④ 研究主題について

ア 「自立した学習者」について

これからの日本は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などがますます進み、子どもたちの将来は、予測困難な時代になると言われている。このような時代の中で、令和の日本型教育の構築として全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す。学校教育においては、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働しながら課題を解決していく資質・能力の育成が求められている。

このことから高森町教育研究会では、「自立した学習者」を自らの学びを把握・調整し、課題解決へのプロセスを自分で決定し、他者と協働して課題を解決する資質・能力を身に付けた生徒と位置づけ、教育活動全般を通してこのような資質・能力を育成することを旨とする。

【成果】

- 情報の収集にかかる時間を削減することができ、効率よく校内研修を進めることができた。
- 思考を可視化し整理していくことで、意見共有が容易になり、研修における学びを深めることができた。
- ICTを積極的に活用することで、教師の情報活用能力を向上させることができた。

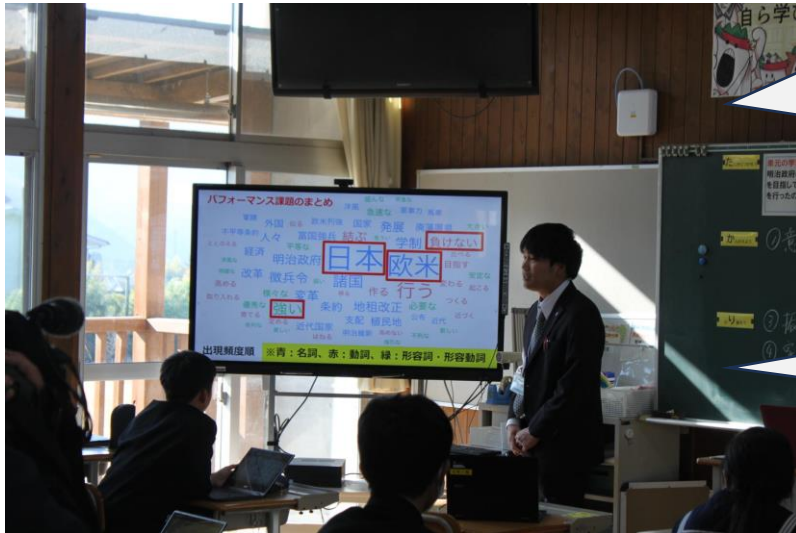
リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高森町立高森中学校（熊本県）

【取組内容④】 先進事例を発信するための町内外への授業公開の取組

○授業力向上や参加者への普及を目指した授業公開

動画リンク



高森町では10年間、高森町「新たな学び」研究発表会を行ってきた。地域内外に各学校の先進事例を発信し、当該校の授業力向上や参加者への普及を目指して研究発表会を行ってきた。令和5年度からは新たな形を模索しながら、公開授業の取組を行った。

授業後は、有識者の方をお招きして協議を行い、町内職員や参加者の学びを深めている。



【成果】

授業公開を行い、町内外の先生方や有識者の先生からご意見をいただくことで、研究の方向性を再確認することができた。また、授業公開に向けて授業研究会を重ねることで、本校職員が授業力向上に向けて学ぶ機会になった。